

2020年度プロジェクト研究所業績報告書(中間報告)

プロジェクト名	観光コミュニケーション研究所
研 究 所 名	実践女子大学観光コミュニケーション研究所
設 置 開 始	2020. 4. 1
設 置 終 了	2023. 3. 31

<研究業績報告書>

今年度の研究計画の概要

本研究の目的は、多摩地域の観光情報を分かり易い形式で世界に発信する「海外発信マニュアル」を構築してそのノウハウを多摩地域および全国の地方自治体に提示し、啓蒙活動を行うことにあった。日本政府観光局の統計によれば、2018年の訪日外国人数は中国と韓国からの訪問者だけで73.3%を占めており、そのためこうした近隣諸国への情報発信ではなく、日本から遠距離にある欧米諸国に焦点を当て、それらの国々に多摩地域の魅力を発信し、効果的な訪日外国人誘致の手法をマニュアル化し、その効果を検証するものであった。

初年度の2020年度は、

- ・ 多摩地域を訪れている欧米諸国からの訪日外国人に対して、二種類のインタビュー（街頭インタビューおよび深層インタビュー）を行い、多摩地域の情報発信の実情を分析し、その分析結果を基に情報発信のあり方について理論を構築し、
- ・ 同時に、多摩地域の観光情報を海外に発信する拠点を設定し、欧米諸国からの留学生に自国の言語で自国の家族や知人等に対して多摩地域の情報を発信してもらい、その効果を分析する予定であった。

現在までの進捗状況

1. 事業計画の進捗度について（①～④のいずれかを選択してください）

①順調である ②おおむね順調である ③やや遅れている **④遅れている**

東京オリンピック・パラリンピックの開催が翌年度に実施されるとしても、観戦に来日する外国人観光者は見込めない状況にあり、同時に外国人の参加選手並びにその関係者との接触も期待できない状況にあることから、以下に示す計画の修正を行うこととした。

- ・ 現在日本にいる欧米諸国からの外国人を対象に街頭インタビューおよび深層インタビューを行い、多摩地域の情報発信のあり方に関する意見を聴取するため、大使館あるいは研究員のネットワークを通じてインタビューに最適な欧米諸国からの外国人を探索し、インタビューに最適な候補者リストを作成する。
- ・ 海外発信拠点「留学生のたまり場」として、東京都商工会連合会多摩観光推進協議会の事

務室の一角を無償にてお借りする予定でいたこと、また多摩地域のホテルの一室を開放していただく話などもあったが、人流あるいは外出の規制が今後も不定期に続いていくことが予想されることから、物理的なスペースからネット上の拠点に修正し、来日中の留学生だけでなく欧米諸国の学生との交流も可能にする「たまり場」を構築する。

2. 目標達成状況について（①～④のいずれかを選択してください）

① 達成した ② おおむね達成した ③ 十分達成されたとはいえない ④ 未達成である

本研究の根幹は、日本に滞在している外国人および東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴い訪日する外国人選手団・関係者に対するインタビューと、日本で学ぶ留学生とのコラボレーションである。しかしながら、新型コロナウイルス感染症対策によりこれらの計画が実施できない状態に陥った。そのため、上述した計画の修正を行うこととした。

取り組み状況について

1. 組織的な取り組みができているか（①～④のいずれかを選択してください）

① できている ② おおむねできている ③ あまりできていない ④ できていない

組織的な取り組みが十分でない事由は、実質的な研究活動が停止した状態になっていることによるもので、研究員等の連動が悪いためではない。したがって、現状の研究員のまま修正された計画を実施していく所存である。

2. 研究所メンバーの活動状況について

久保田佳枝

予定されていた役割は、研究補助員である国際観光研究部部員の引率（部員による外国人に対する街頭インタビューのため）と同インタビューの分析であったが、新型コロナの影響でどちらも実施できていない。

武内一良

予定されていた役割は、国際観光研究部部員の引率と外国人による深層インタビューの実施であったが、新型コロナの影響でどちらも実施できていない。

ブラック・ヨーガン

予定されていた役割は、武内と共に深層インタビューの実施をする予定であったが、新型コロナの影響で実施できていない。

駒 治徳

予定されていた役割は、本研究所と多摩観光推進協議会との仲介と海外発信拠点の設置であった。前者は実施されているが、後者は新型コロナの影響で実施できていない。

ジョグ・ダウダ

予定されていた役割は、留学生の募集・管理であったが、新型コロナの影響で実施できていない。

有吉 功一

予定されていた役割は、海外メディアとの連動であったが、新型コロナの影響で発信すべきコンテンツ（調査結果等）がないので実施できていない。

成果について
1. 波及効果が見込まれる成果が得られているか
<p>新型コロナの影響で当初予定していた成果を得られていないが、今年度の実績としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文献研究を通じて、研究の成功につながる新たな知見を獲得した。 ・ 海外発信拠点「留学生のたまり場」に対する考え方を一新し、ネット上で展開する新たなたまり場を設定する準備を開始した。 <p>という2点があげられる。しかしながら、波及効果が見込まれる成果は翌年度に持ち越した状況となっている。</p>
2. 雑誌、学会発表、図書など
<p>初年度の計画に上記発表は予定されていない。</p>